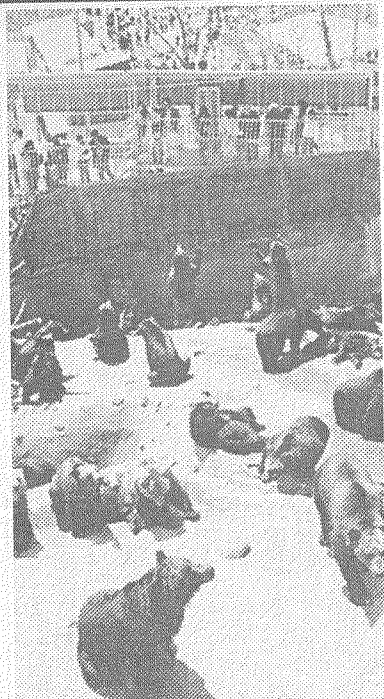


繁殖させておきながら…

ヒグマ 95頭殺す

登別クマ牧場
分家話中断で



過密状態のヒグマを大量に殺した「のぼりべつクマ牧場」

北海道登別市の「のぼり雄社長」で、一昨年十二月九十五頭を網走支庁遠軽町べつクマ牧場（登別温泉から昨年二月にかけて、同で殺していたことが十日、ケーブル会社経営・加森勝牧場で飼育していたヒグマ分かった。

同牧場の説明によると、昭和五十年代後半に、栃木県藤原町の鬼怒川温泉に登別温泉ケーブルの親会社の加森観光（本社・札幌市）がクマ牧場を作る計画を立て、同五十九年ごろから、鬼怒川に約百頭を送り込むためにヒグマの繁殖を開始。一昨年には総数が約二百八十頭に増えた。

しかし、その後鬼怒川温泉での計画が地元住民の反対運動などで一時中断状態となり、管理上も危険な状態となったことからクマを殺したという。殺したヒグマは、いずれも四歳以上の成獣で、遠軽町までトラックで運び、町内の個人が処分した後、町内の毛皮業者に解体処分を依頼したという。

同牧場では、昭和四十二年に脱走したクマ十頭を、また同四十二年にも脱走のおそれのあったクマ五十五頭を射殺している。

ヒグマを殺したことについて、同牧場の渡辺敬一事務長は二百八十頭でも過密ではないが、何が起きるか分からない。他に移動場所もなかったし、引き取り手もなくどうしようもなかった」と話している。

同牧場は昭和三十三年に

開設された観光用施設。約五万平方メートルの敷地に約二百頭のヒグマを飼育しており、昨年は約六十万人が入場した。